

## 調査の目的

ヤングケアラーは家庭内のデリケートな問題であること、本人や家族に自覚がないといった理由から支援が必要であっても表面化しにくいという特徴があることを踏まえ、実態調査により、本県のヤングケアラーの傾向を把握することで、早期発見と適切な支援に向けた体制づくりを促進する

## 調査の対象、方法等

### 1 対象・方法

県内すべての小学校6年生、中学校2年生、高校2年生に、アンケート調査を実施

### 2 回収数

- ・ 小学6年生 9,509人（回収数4,866人、回収率51.2%）
- ・ 中学2年生 10,114人（回収数4,294人、回収率42.5%）
- ・ 高校2年生 9,552人（回収数3,114人、回収率32.6%）

### 3 調査期間

令和4年6月20日から7月20日まで

## 本調査におけるヤングケアラーの定義

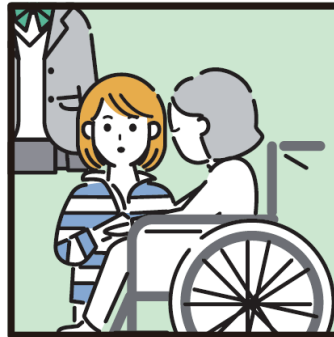
本調査における「ヤングケアラー」とは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」をいう。



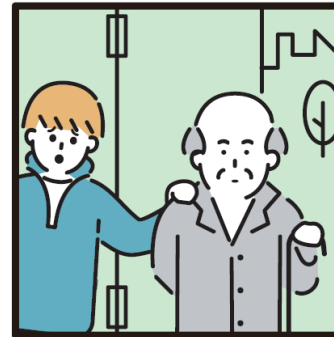
障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目の離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



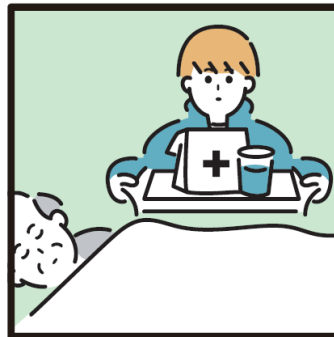
日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。



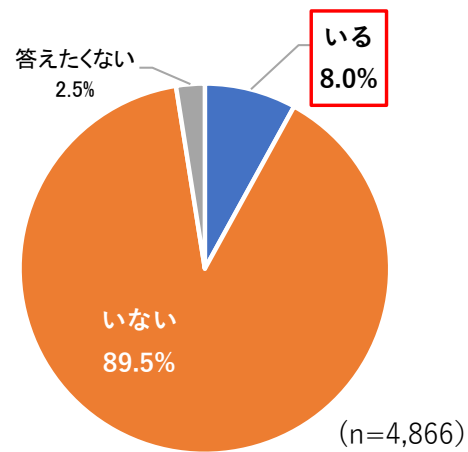
障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

## 調査結果①

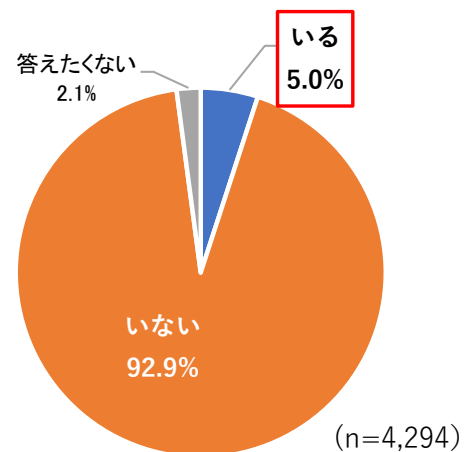
○小中高生に対し、世話をしている家族の有無について質問。

○世話をしている家族が「いる」と回答したのは、小学6年生で8.0%、中学2年生で5.0%、高校2年生で3.2%。

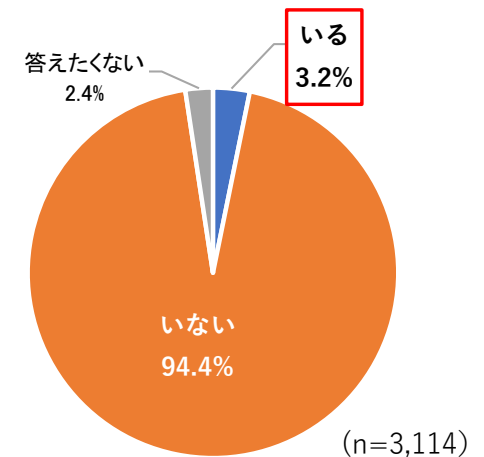
小学6年生



中学2年生



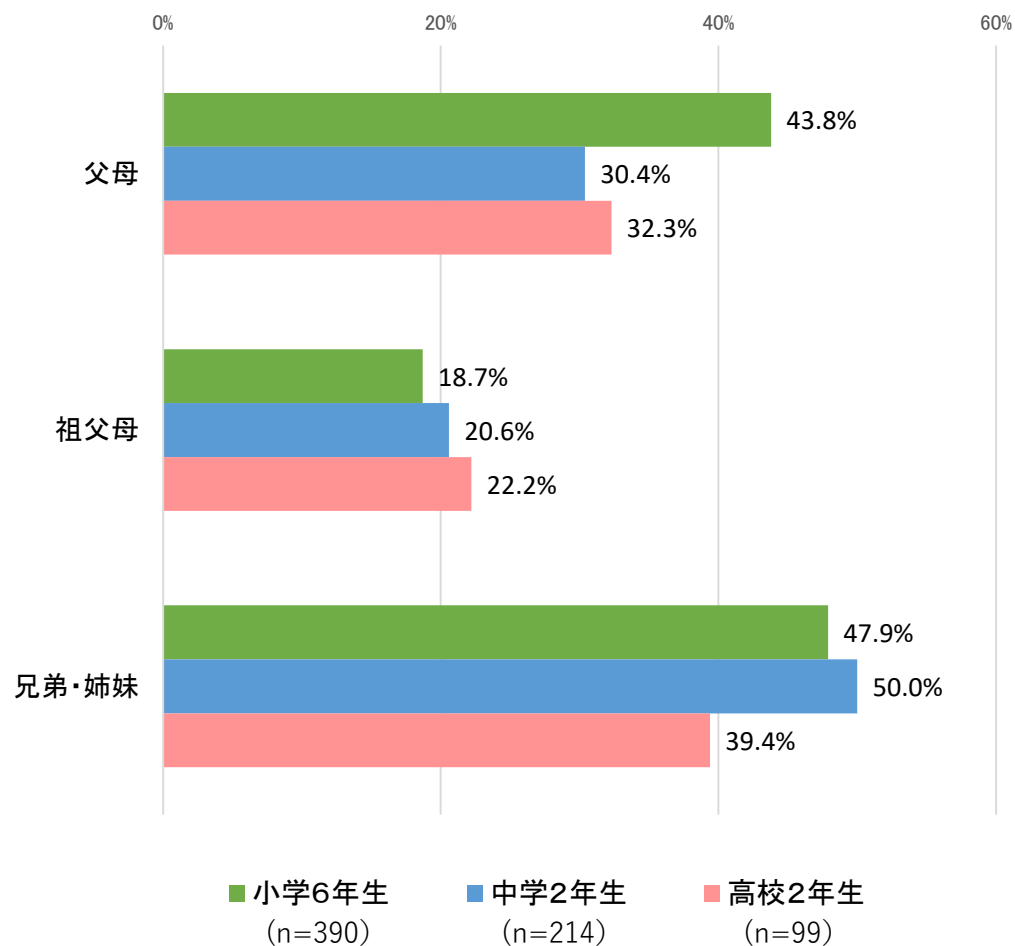
高校2年生



## 調査結果②

○世話をしている家族が「いる」と回答した小中高生に、世話を必要としている家族について質問（複数回答）。

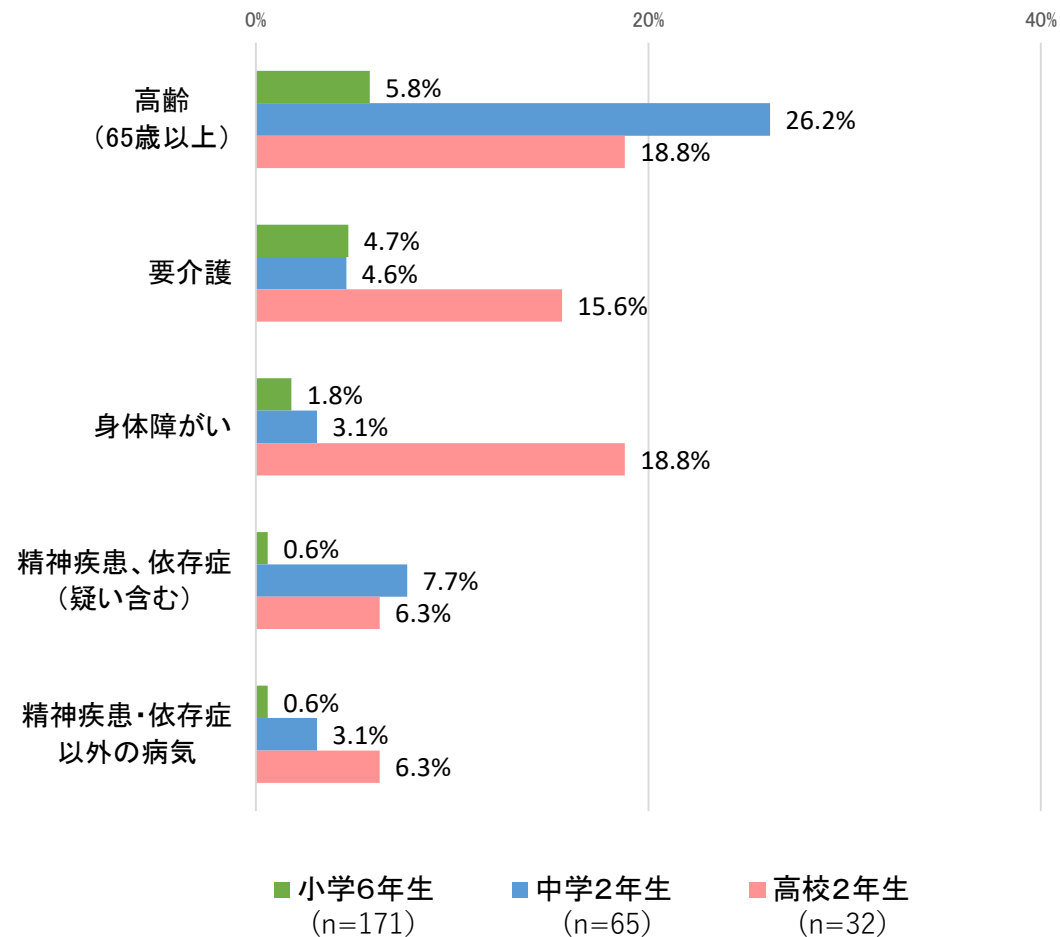
○いずれの層でも「兄弟・姉妹」が最も多く、次いで「父母」が多い。



### 調査結果③

○世話を必要としている家族として「父母」と回答した小中高生に、父母の状況を質問（複数回答）。

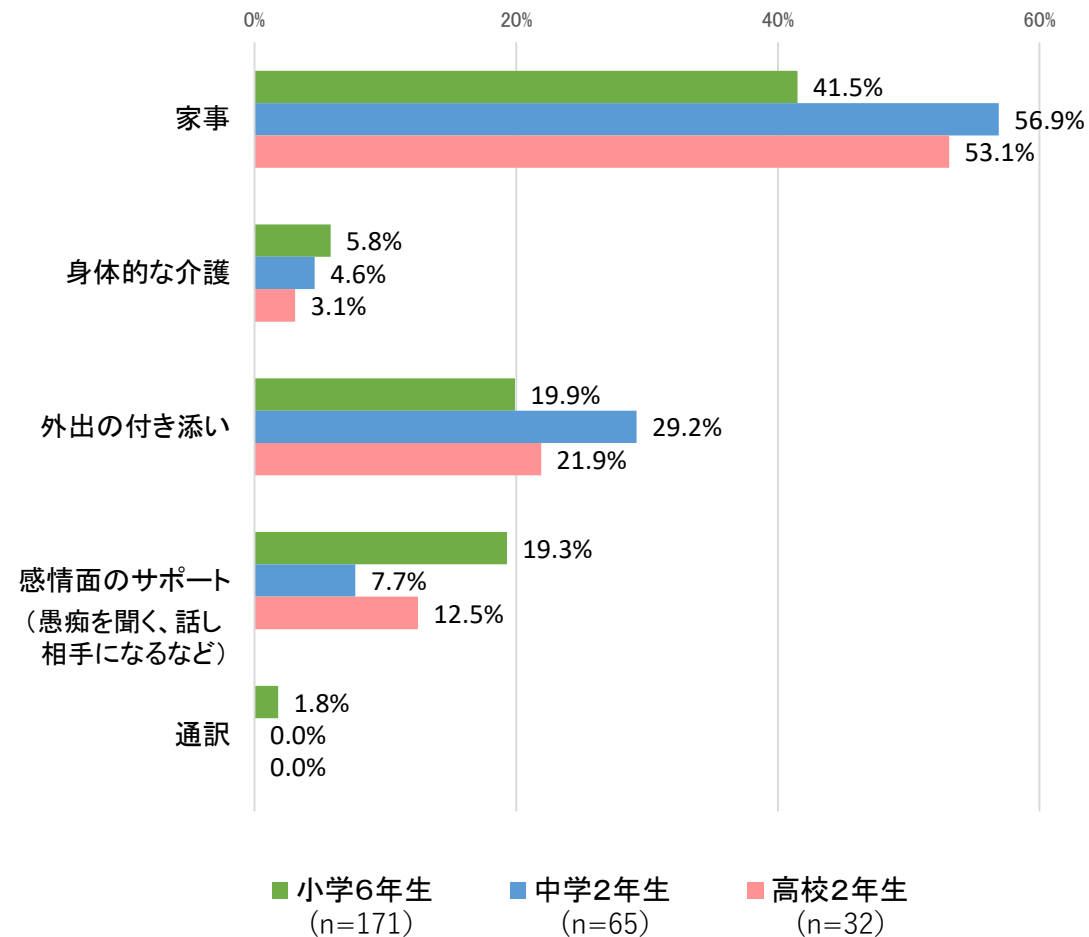
○中学2年生では「高齢」が最も多く、高校2年生では「高齢」「身体障がい」「要介護」が多い。



## 調査結果④

○世話を必要としている家族として「父母」と回答した小中高生に、世話の内容について質問（複数回答）。

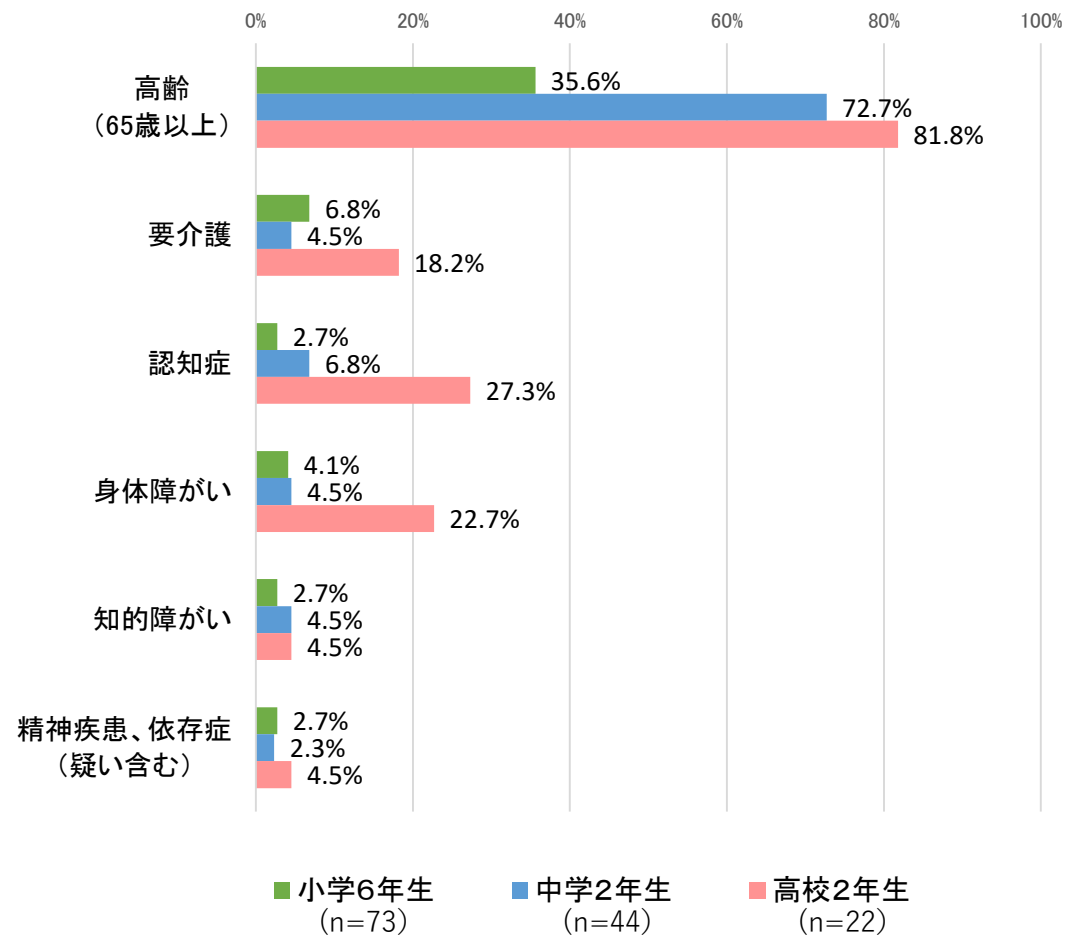
○いずれの層においても、「家事」が最も多い。



## 調査結果⑤

○世話を必要としている家族として「祖父母」と回答した小中高生に、祖父母の状況を質問（複数回答）。

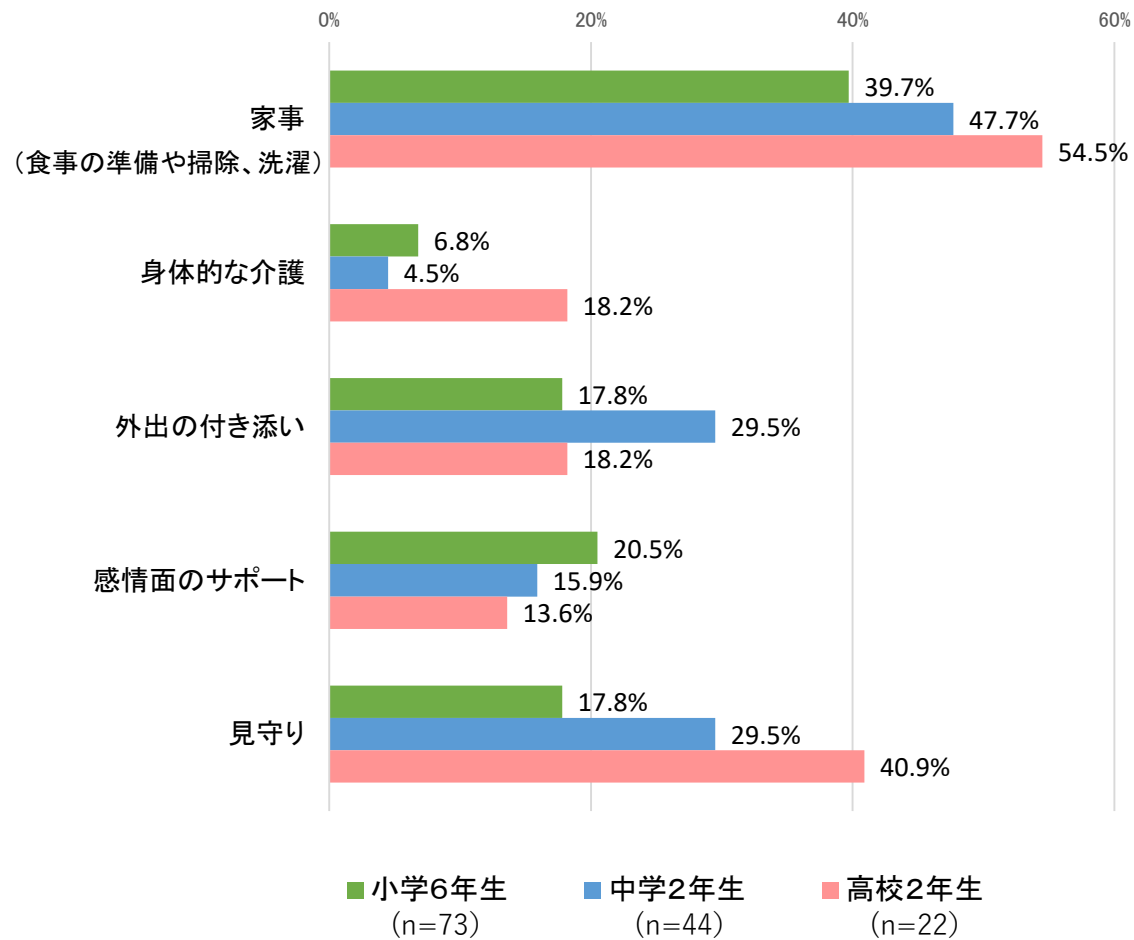
○いずれの層でも「高齢」が最も多い。



## 調査結果⑥

○世話を必要としている家族として「祖父母」と回答した小中高生に、世話の内容について質問（複数回答）。

○いずれの層でも「家事」が最も多い。

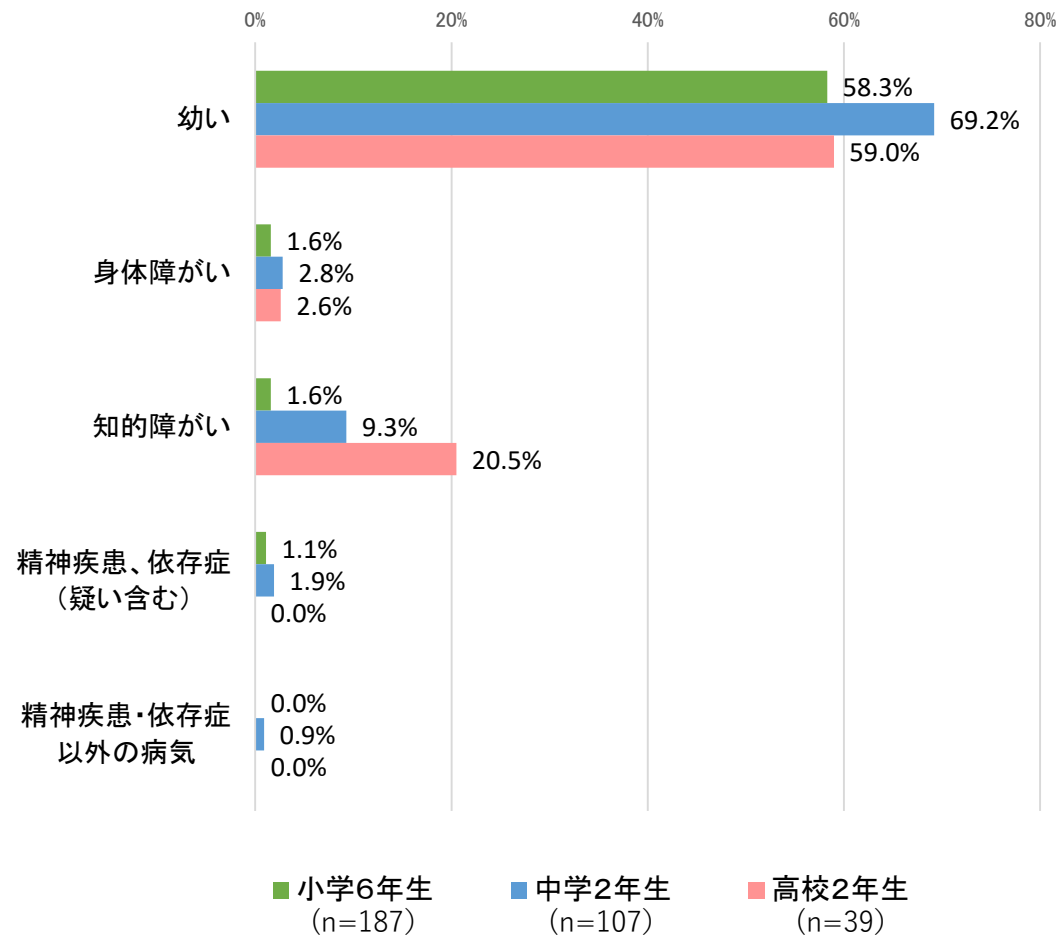




## 調査結果⑦

○世話を必要としている家族として「兄弟・姉妹」と回答した小中高生に、兄弟・姉妹の状況を質問（複数回答）。

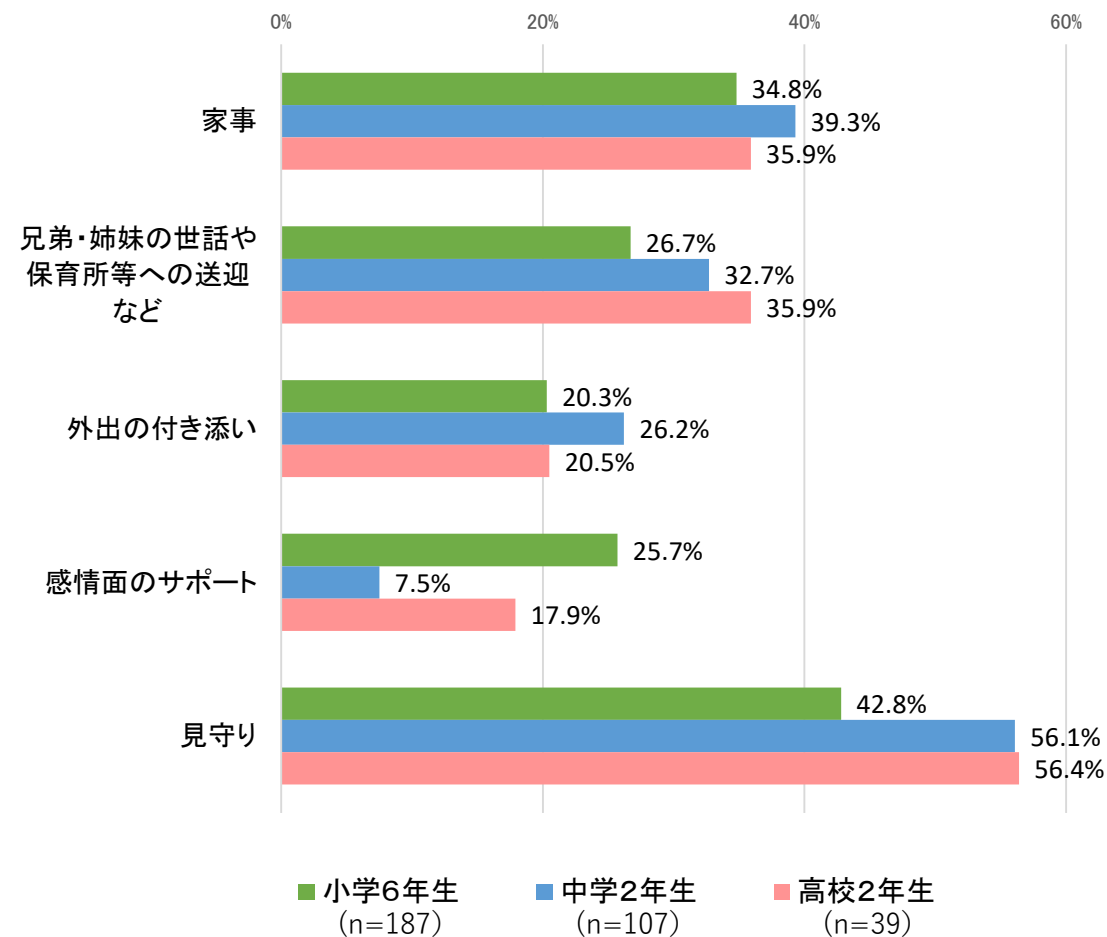
○いずれの層でも「若い」が最も多い。次いで「知的障がい」が1～2割程度。



## 調査結果⑧

○世話を必要としている家族として「兄弟・姉妹」と回答した小中高生に、世話の内容について質問（複数回答）。

○いずれの層でも「見守り」が最も多い。

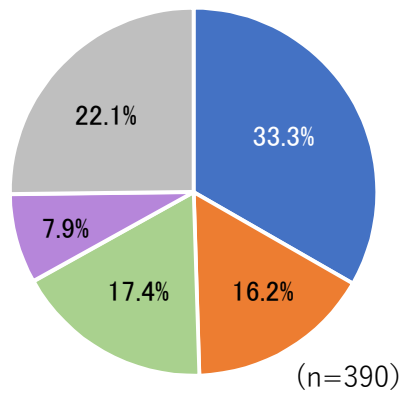


## 調査結果⑨

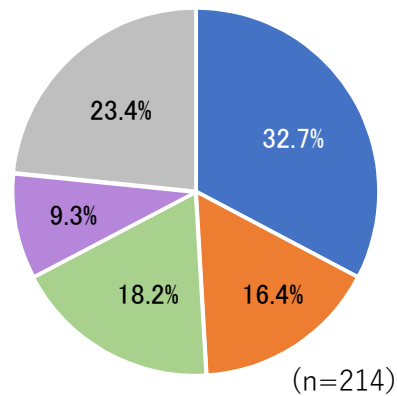
○世話をしている家族が「いる」と回答した小中高生に、その頻度について質問。

○いずれの層でも「ほぼ毎日」が最も多い。

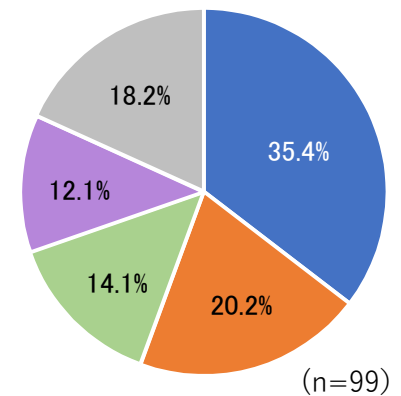
小学6年生



中学2年生



高校2年生

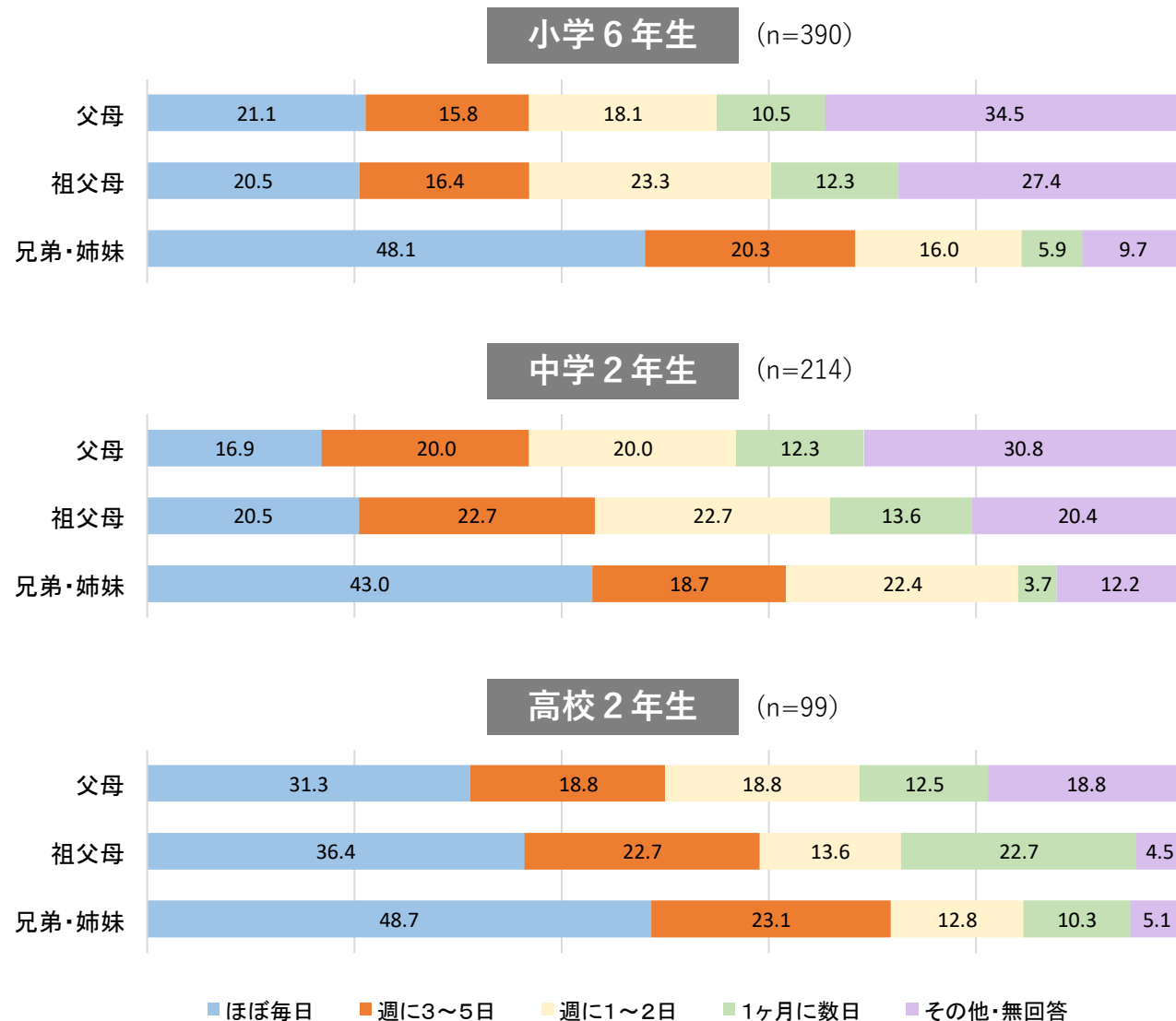


■ ほぼ毎日 ■ 週に3~5日 ■ 週に1~2日 ■ 1ヶ月に数日 ■ その他・無回答

## 調査結果⑩

○世話をしている家族が「いる」と回答した小中高生に、世話をしている家族ごとに頻度を質問。

○兄弟・姉妹については、「ほぼ毎日」世話をしている割合が最も高く半数近くを占めている。

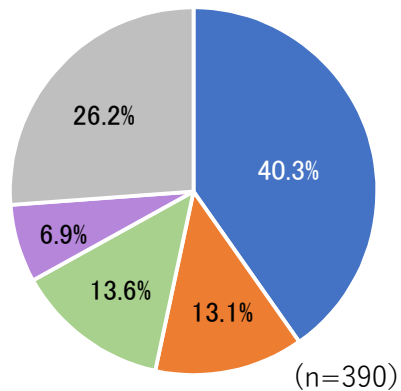


## 調査結果⑪

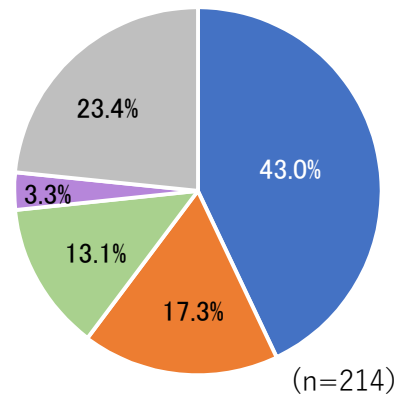
○世話をしている家族が「いる」と回答した小中高生に、平日1日あたり世話に費やす時間について質問。

○いずれの層でも「1時間程度」が最も多く4割強を占めている。「7時間以上」世話に費やしているのが3~6%存在する。

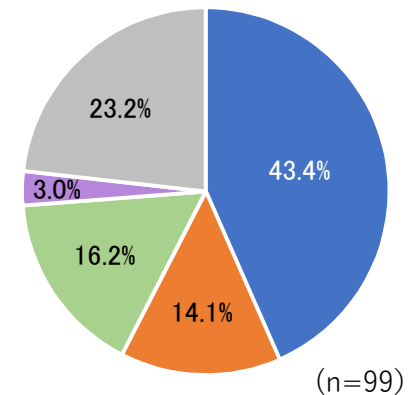
小学6年生



中学2年生



高校2年生

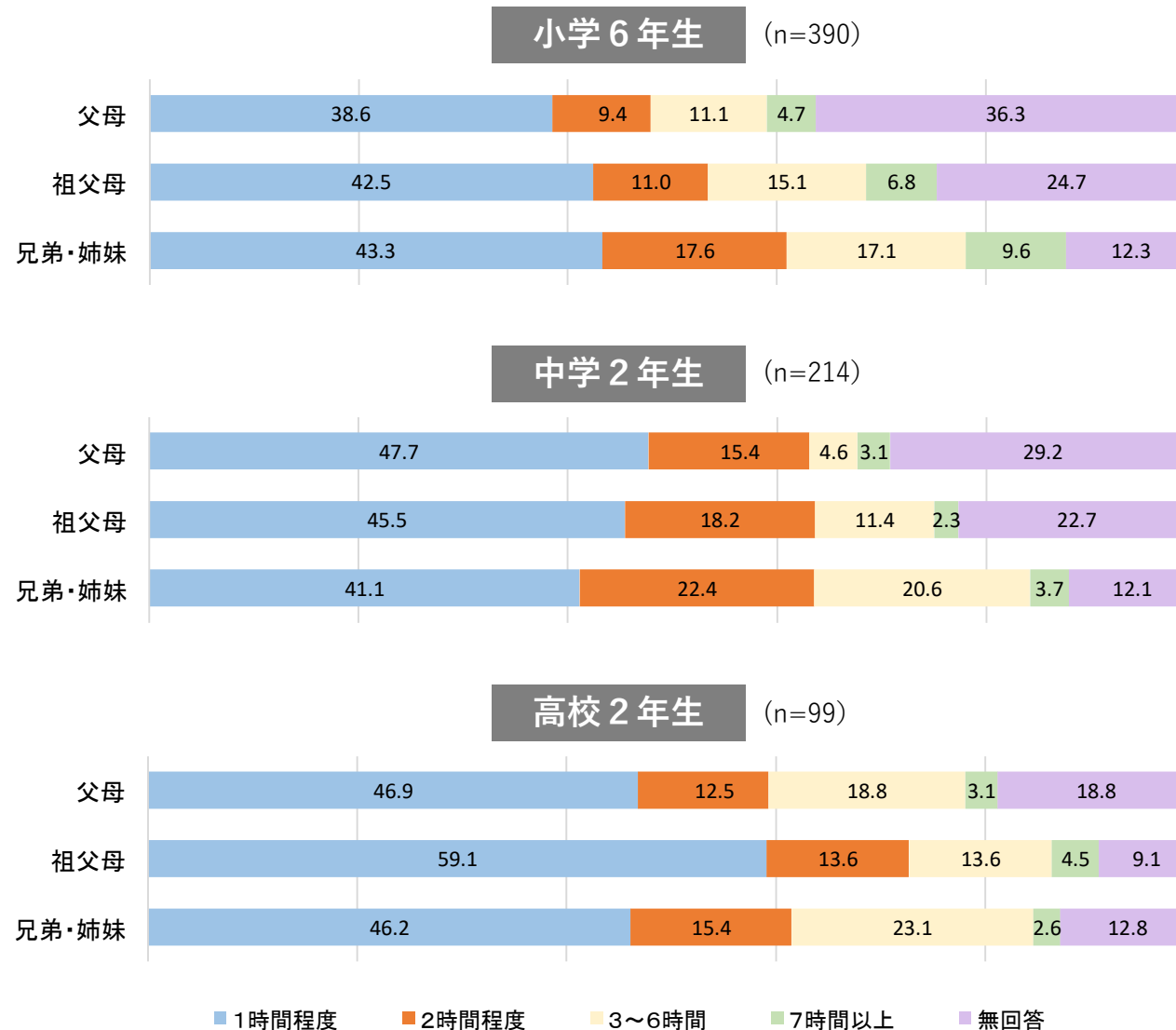


■ 1時間程度 ■ 2時間程度 ■ 3~6時間 ■ 7時間以上 ■ 無回答

## 調査結果⑫

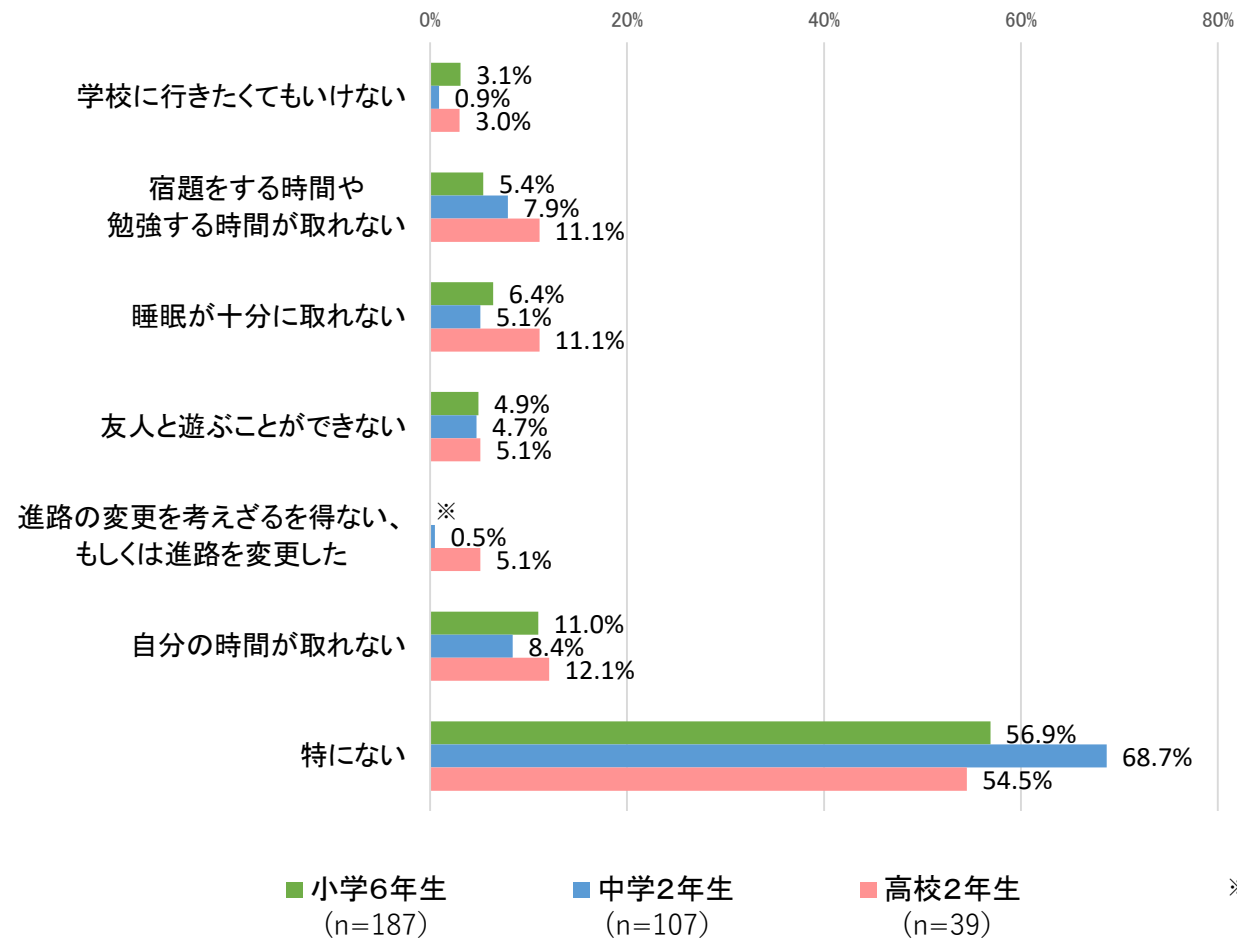
○世話をしている家族が「いる」と回答した小中高生に、世話をしている家族ごとに、平日1日あたり世話に費やす時間について質問。

○兄弟・姉妹については「1～2時間」で6割前後を占めている。「3時間以上」の割合が他と比べ高い。



## 調査結果⑬

- 世話をしている家族が「いる」と回答した小中高生に、世話をしているために、やりたいけれどできていないことについて質問（複数回答）。
- いずれの層でも「特にない」が6割前後と最も多いが、それ以外では「自分の時間が取れない」「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」「睡眠が十分に取れない」が多い。

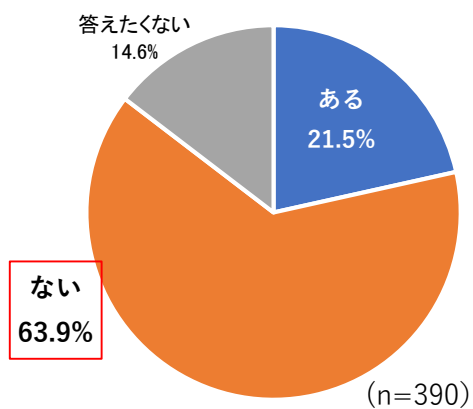


## 調査結果⑭

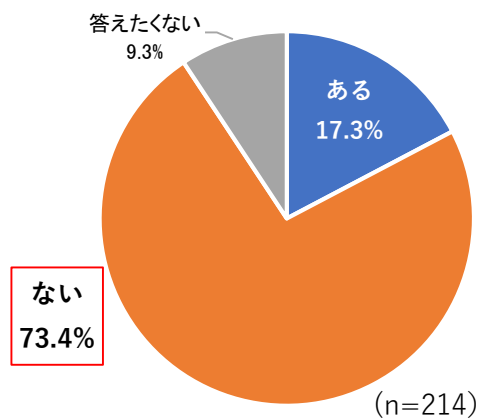
○世話をしている家族が「いる」と回答した小中高生に、世話について相談した経験の有無について質問。

○いずれの層でも、相談した経験が「ある」が2割前後、「ない」が7割前後。

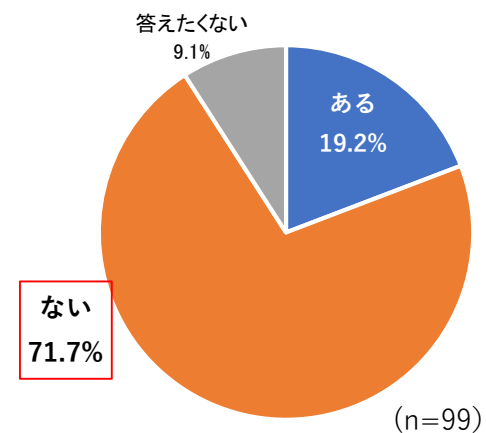
小学6年生



中学2年生



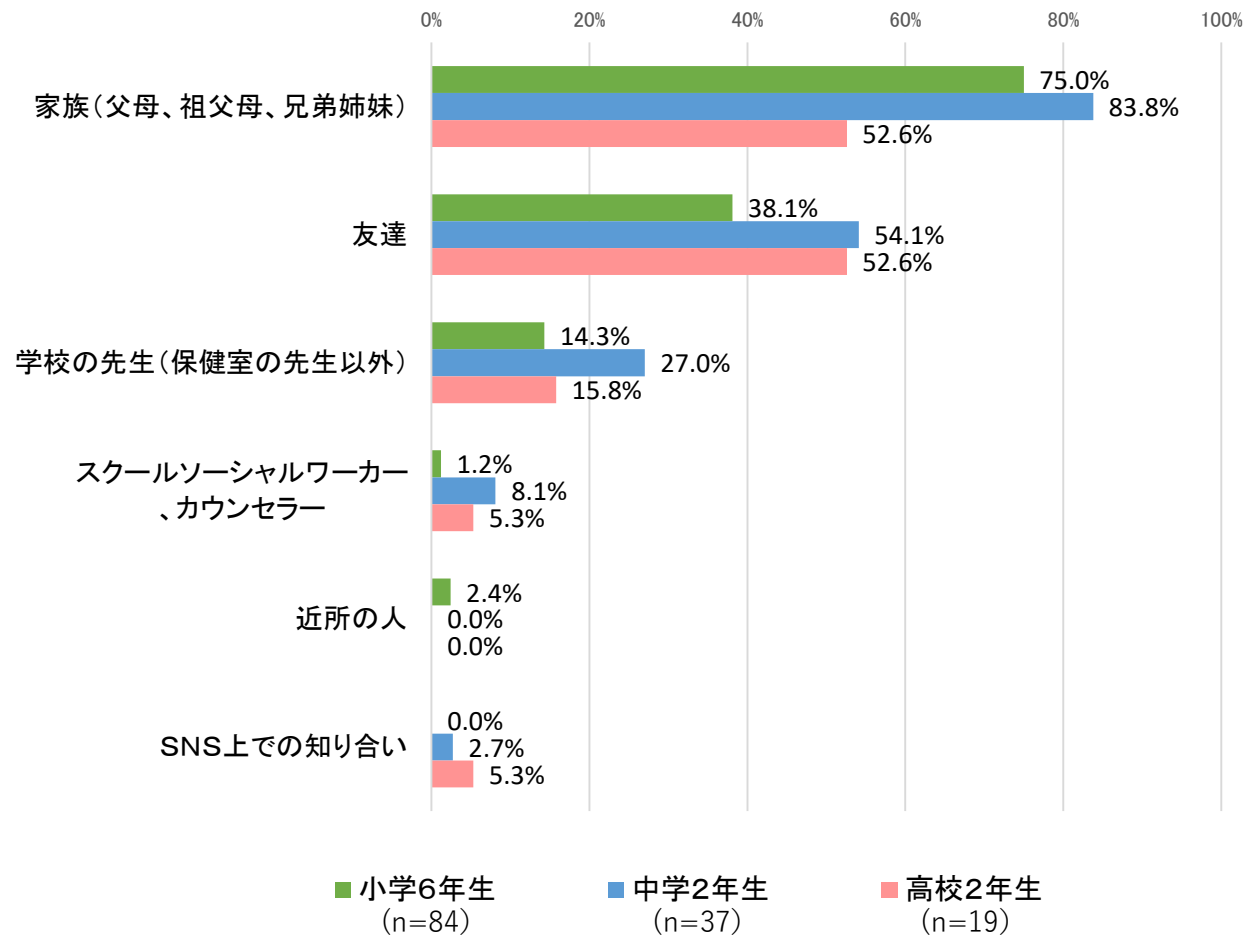
高校2年生





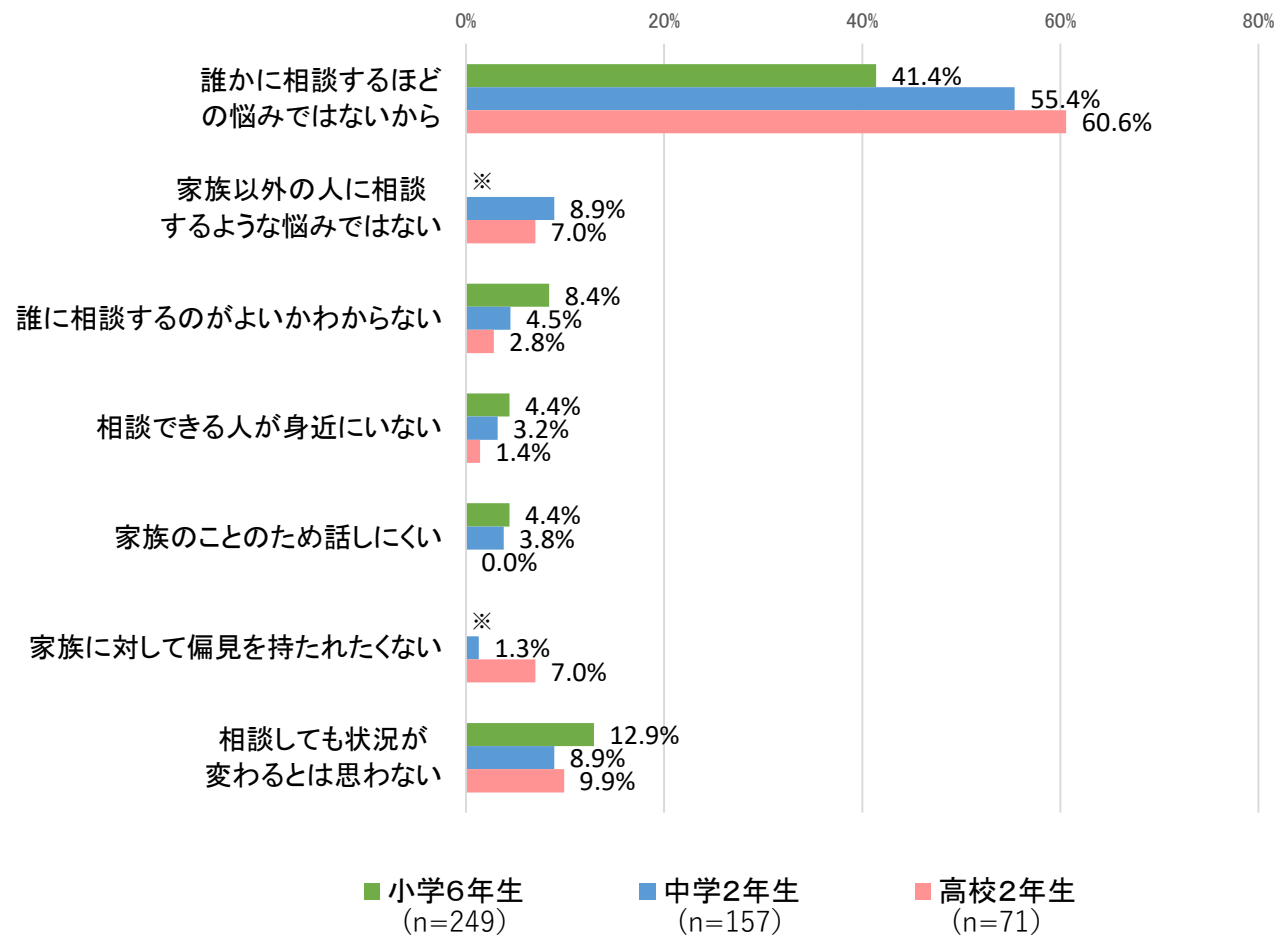
## 調査結果⑮

- 世話について相談した経験が「ある」と回答した小中高生に、相談相手について質問（複数回答）。
- 「家族（父母、祖父母、兄弟姉妹）」が最も多く、次いで「友達」が多い。
- 「学校の先生（保健室の先生以外）」も2割前後あった。



## 調査結果⑯

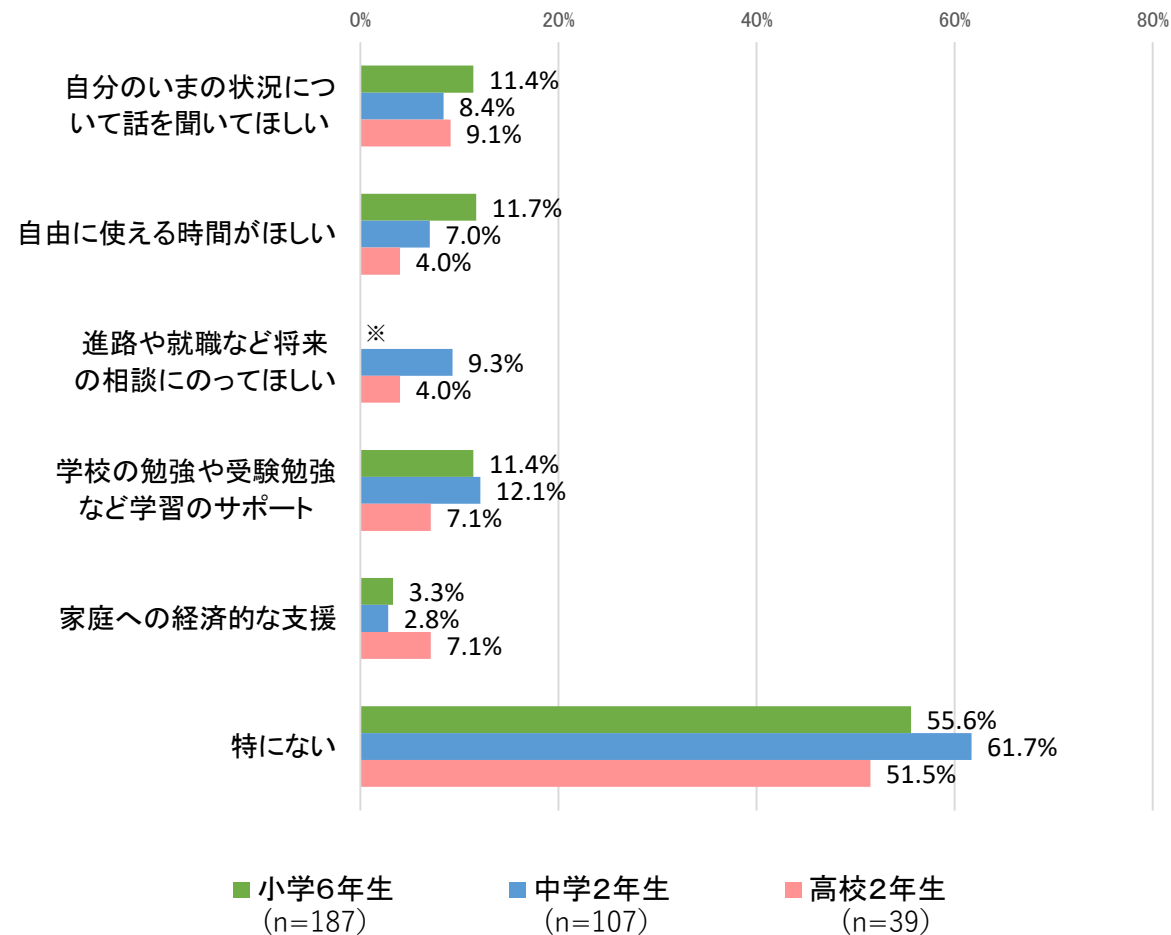
- 世話について相談した経験が「ない」と回答した小中高生に、その理由について質問（複数回答）。
- 「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も多く、次いで「相談しても状況が変わるとは思わない」。



## 調査結果⑰

○世話をしている家族が「いる」と回答した小中高生に、学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援について質問（複数回答）。

○いずれの層でも「特にない」が5割強と最も多い。それ以外では「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「自由に使える時間がほしい」が多くあがっている。

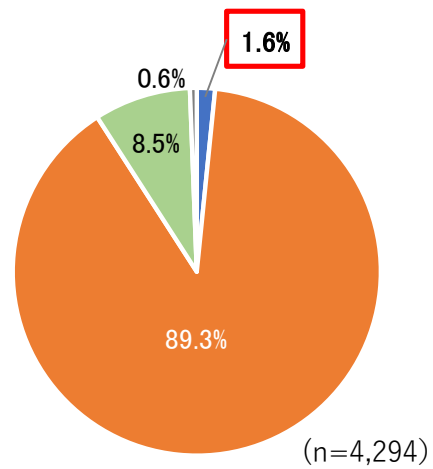


## 調査結果⑱

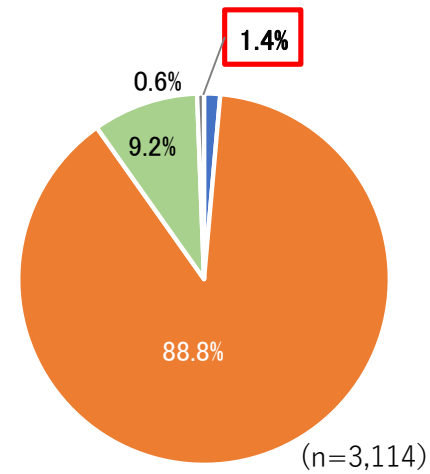
○中高生に対し、自分がヤングケアラーにあてはまると思うかについて質問。

○「あてはまる」とした生徒は、中学2年生1.6%、高校2年生1.4%。「わからない」は1割弱。

中学2年生



高校2年生



■ あてはまる ■ あてはまらない ■ わからない ■ 無回答

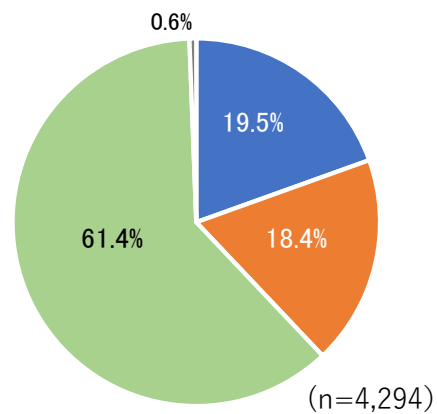
※小学6年生では聴取していない

## 調査結果⑱

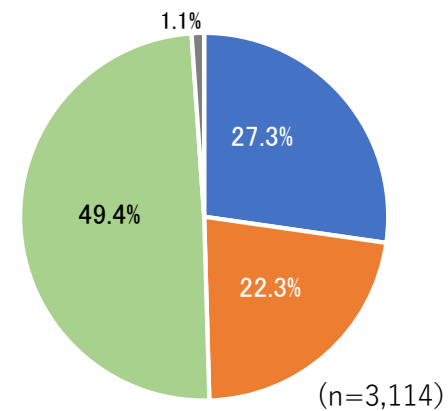
○中高生に対し、ヤングケアラーの認知度について質問。

○「内容も知っている」「聞いたことはあるがよく知らない」を合わせ、中学2年生37.9%、高校2年生49.6%。  
「聞いたことはない」は5～6割。

中学2年生



高校2年生



■ 聞いたことがあり、内容も知っている ■ 聞いたことはあるがよく知らない ■ 聞いたことはない ■ 答えたくない

※小学6年生では聴取していない